

# 「消防行政統合システム整備事業」について

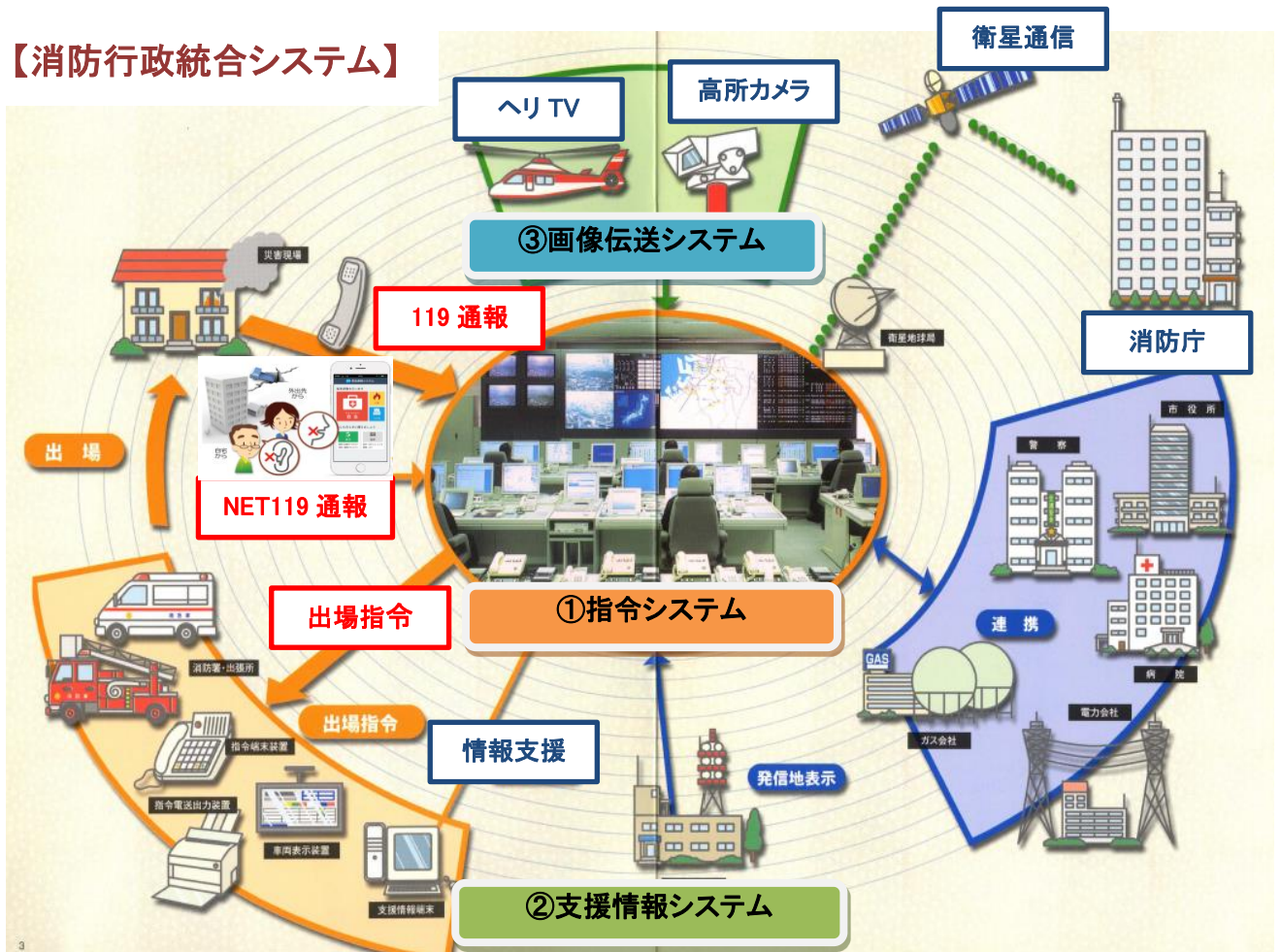
## 1 消防行政統合システムとは

- **消防通信指令総合システム**(以下「指令システム」という。)・・・119番通報を受信し、コンピュータ制御により消防隊、救急隊の出場指令、車両動態管理や無線統制などを行う、消防行政統合システムの中核をなすシステム
- **支援情報システム**・・・警防(消防・救急・救助等)業務、予防(危険物・設備・査察等)業務などの消防業務における事務処理を電子化したシステム
- **画像伝送システム**・・・高所カメラ装置・広域応援画像受信装置・衛星地球局から構成され、高所に設置したカメラやヘリコプターからの映像による災害状況の早期把握や、有事の際に総務省消防庁をはじめとする国・府等の防災機関への映像配信を行うためのシステム。

以上の3システムを中心として、消防電話装置や気象観測装置等の消防業務システムを含めた、相互に連携されたシステム全体の総称である。

消防業務は、いつ発生するか予測できない災害に対応しなければならないことから、24時間365日、常に安定稼働を求められている。

### 【消防行政統合システム】



## 2 これまでの経緯

- 平成2年4月…第1期「指令システム」の運用を開始し、コンピュータ制御による消防隊、救急隊の管理が可能となった。
- 平成10年4月…平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災を契機に、迅速な情報収集及び伝達を目的として、市役所本庁の消防用高所カメラ設置を含む「画像伝送システム」を整備し、運用を開始した。
- 平成16年4月…機器の老朽化、機器障害時の交換部品の枯渇により、「指令システム」の安定稼働の維持が困難になったため、第2期「指令システム」の運用を開始、併せて消防業務の事務を電子化した「支援情報システム」の運用を開始した。
- 平成19年3月…市役所本庁の高所カメラのみでは、堺市東部の映像が見えづらいため、北野田地区に「画像伝送システム」における消防用高所カメラを増設し、カメラ制御部の一部機器を更新した。
- 平成23～25年度…「指令システム」、「支援情報システム」の主要機器について、安定稼働及び保守部品の確保のため、ハード機器更新を実施した。

以上により、現在の「消防行政統合システム」の体系となった。

## 3 現状の課題と目標とする成果

「指令システム」、「支援情報システム」については、前回のシステム更新から14年以上が経過し、度重なる法改正や運用変更に対応すべく抜本的な見直しを行う必要があるうえに、保守部品の調達が困難になってきている。また、「画像伝送システム」については運用開始から20年以上が経過しており、装置の老朽化、交換部品の枯渇などにより、安定稼働の維持が困難な状況となっている。

「消防」という業務は、緊急性、確実性を伴う業務であり、システムの高い信頼性が必須となる。しかし、一定の年数が経過すれば、24時間連続運転の影響から機器障害の発生頻度が増加し、交換部品の不足により復旧まで時間を要することから、一定期間が経過した機器については、交換部品の不足に至る前に定期的に更新していかなければならない。

そのため、費用対効果を見定めたくうえで、最新の ICT 技術の取り込みとシステムの安定稼働を目的として、消防行政統合システムの全部更新を行うべく、平成 28 年度に実施設計を行い、平成29年度に高品質かつ最先端のシステム調達を目指し、総合評価一般競争入札により構築ベンダーが決定され、平成 30 年度～平成 31 年度で構築を行い、31 年度中の本稼働を目標として事業を進めている。

また、画像伝送システムの一部である衛星地球局(現在は第1世代型)にあつては、消防行政統合システムの更新事業の対象には入っておらず、平成 30 年度に第 3 世代といわれる次世代型の衛星システムの仕様が一般財団法人自治体衛星通信機構により示されるため、平成 31 年度に第 3 世代型の衛星地球局を導入し、運用を開始する。